

まあちゃんのながいかみ

たかどのほうこ 作

福音館書店 1995年 743円



短い髪のまあちゃんは、長い髪が自慢の友達に、髪をずうーっとのばすと言います。どれくらいかと聞かれると、橋の上からおさげをたらして魚が釣れるくらい、おさげにうち中のせんたくものが全部干せるくらい…とまあちゃんは答えます。無彩色の現実の場面に対し、まあちゃんの想像の場面は、画面いっぱいに色鮮やかにいきいきと描かれています。シリーズは「まあちゃんのまほう」があります。

まりーちゃんとひつじ

フランソワーズ 文・絵

与田準一 訳

岩波書店 1956年 640円



まりーちゃんが羊のぱたぼんに語りかけます。ぱたぼんがこどもを1匹うんだらすきなものが買えるわね、2匹うんだら新しいくつが、3匹なら赤い帽子が…と、まりーちゃんの夢はふくらみます。そして、ぱたぼんはこどもを1匹うみ、まりーちゃんは新しいくつしたを編んでもらいました。明るい色調の素朴な絵と、くり返される言葉があたたかみを感じさせる絵本です。他「まりーちゃんのはる」が入っています。続編に「まりーちゃんのくりすます」があります。

めのまどあけろ

谷川俊太郎 文

長新太 絵

福音館書店 1984年 743円



「めのまどあけろ おひさままってるぞ…」と、子どもが目を覚ますところからはじまります。着替えをし、顔を洗い、遊んで、お風呂に入り、「ふとんのうみにもぐったら…ねんねんころりねんころり」と、子どもが夜寝るまでを、11編の詩が歌い上げます。詩人谷川俊太郎のリズミカルな言葉に、長新太の愉快的な絵がよく合っています。